

謝辞にかえて

大平 裕

父・大平正芳の十五回忌に当たり、大平正芳記念財団から『大平正芳 政治的遺産』が刊行されますことは、私ども遺族にとってこの上ない光栄であります。

振りかえってみれば、『大平正芳回想録』（全三巻）が大平正芳回想録刊行会から上梓され、父の生前のすべての面に光が当てられましたのは、父の没後二年目のことでした。その後、この回想録のうち、公文俊平、香山健一、佐藤誠三郎の諸先生のご監修による第一巻「伝記編」は、講談社インターナショナルから英語版として、ついで、中国青年出版社から中日友好協会・中日関係史研究会の編訳による中国語版として出版され、海外に父の事績の詳細が知られることとなりました。これらの出版事業に対して、ひとかたならぬご協力を賜った各界各分野の皆様、改めて心からの御礼を申し上げます。

このたびの『大平正芳 政治的遺産』は、こうした積み重ねを踏まえ、本格的な研究書として企画されたものであります。『回想録』の第一巻「伝記編」の場合と同じく、公文、香山、佐藤の三先生のご監修のもとに、学界、政界、財界、官界、言論界等で指導的地位にある多数の方々、さらには海外の方々からもご寄稿を賜ることができました。死後十数年を経てなお、このように関心の対象としていただくとは、一政治家としてきわめて異例であり、私どもにとっても名譽なことと存じます。

ここに掲載されたすぐれた論文やエッセイは、もはや大平正芳個人の事績の評価という域をはるかに越えた、日本の政治と政治家のあり方に関する普遍的な研究として、きわめて大きな意義を持つものとなると確信いたします。

ご監修に当たられた諸先生、ご執筆いただいた皆様、刊行にご協力を賜った関係者の皆様に対して、紙上から深い敬意と謝意を表する次第です。

ありがとうございました。

平成六年六月